用水路としての表情を見せる市来知幹線（下／三笠市岡山）とペンケ用水路（左／砂川市焼山）。空知の豊かな穀倉を支え続けている。

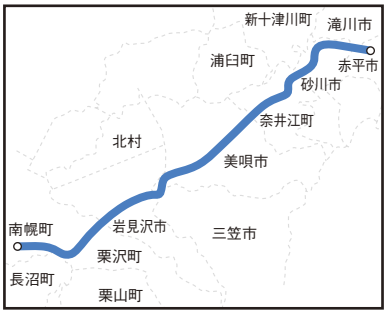
空知川（右）の水を頭首工から引き入れ、北海幹線用水路は始まる（北海頭首工／赤平市）

親水の場としての整備も進む（流れのプラザ／砂川市）

住宅地を通ることがあり、橋を渡るのに迂回しなければならないところもあり、水勢が早いから危険も伴う。そこで市街地では蓋をして上を公園化するとか、親水広場にするなどの工夫も凝らされている。

これからは用水路の機能だけでなく、多様な使い方が求められるだろう。桜堤や紅葉堤にしたり、自然歩道に仕立てるのもいいかもしれない。最近は市民の関心も高まり、いろいろな見学会も催されるし、住民による用水の整備も行われ、栗沢町ではグリーン少年団が植樹活動に乗り出した。赤平の頭首工付近の住吉町内会では、毎年アジサイを植栽し、住民の手で憩いの場所となる東屋を整備した。

Data



●お問い合わせ先
北海土地改良区　Tel. 0126-22-2400

行われた。ことに岩見沢駅構内をサイフォンで抜ける工事は規模も大きく難工事だったという。これを含めて鉄道関連の工事は鉄道橋、開渠、暗渠などを含めて幹線5ヵ所、支幹線9ヵ所、支線7ヵ所の合計21ヵ所にのぼった。

用水路は当初から一部コンクリートで施工されたが、当時はまだ国内産セメントの製造能力は少なく、時に不良品も出たので、函館の浅野セメント会社と直接一括供給契約した。結果として全工区を通じて所用セメント量は確実に供給されたが、途中、関東大震災が起きて供給も一時難航したという。

史料には、資材や工事の請負については業者の談合があるから大変だ、それをできるだけ避けるためにきちんとした入札をしなければならないという意見が出た、などと記されている。

工事を巡っての意見の相違ももちろんないわけではなかった。美唄の逆サイフォン工事では農業者の騒動があり、犠牲者も出たという。水争いという言葉があるが、まさに農業については昔も今も水が大きな問題なのであった（参考：『北海土地改良区八十年史』・北海土地改良区、平成13年）。

何気なく見て、通り過ぎてきた用水路は、地味ではあるが豊かな穀倉地帯を支える重要な役割を果たしてきたのである。